

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第34期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 島中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第1四半期連結 累計期間	第34期 第1四半期連結 累計期間	第33期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
営業収入(千円)	6,337,783	8,330,529	26,122,627
経常利益(千円)	463,798	1,010,616	2,120,707
四半期(当期)純利益(千円)	138,299	573,007	1,136,992
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	151,896	592,813	1,147,550
純資産額(千円)	11,179,711	12,566,148	12,084,065
総資産額(千円)	16,846,655	19,992,619	18,257,139
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	14.91	62.03	122.96
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	64.9	61.3	64.5
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	479,066	660,568	3,008,445
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	94,338	250,695	578,875
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	156,832	113,457	263,873
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	3,864,914	6,083,271	5,783,607

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。

3. 第33期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により企業生産、輸出が大幅に減少するなど厳しい状態が継続しておりましたが、サプライチェーンの復旧により徐々に改善の動きもみられました。しかしながら、長期化する原発問題に起因する電力供給不足などの不確定要素により、今後の景気動向は依然不透明な状況であります。

当第1四半期連結累計期間の事業概況について、営業収入につきましては大型コンサートツアーや舞台公演などのライブエンターテインメント活動に加え、それらの会場やオンラインショップで販売するグッズ販売収入も含め好調であり増収となりました。営業利益につきましては上記増収要因に加え、厳しい環境下ではありましたがCM収入も好調だったことにより大幅な増益となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は営業収入83億3千万円（前年同期比31.4%増）、営業利益10億4千7百万円（前年同期比128.1%増）、経常利益10億1千万円（前年同期比117.9%増）、四半期純利益5億7千3百万円（前年同期比314.3%増）となり期首計画に対しても好調に推移いたしました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔アーティストマネージメント事業〕

当事業につきましては、福山雅治の大型全国ツアーをはじめ、flumpool、ONE OK ROCKなどのコンサートツアーや三宅裕司が演出、出演する舞台公演などライブエンターテインメント活動を積極的に実施し、グッズ販売も含め好調であり主要な増収増益要因となりました。さらに、大泉洋、福山雅治、若手アーティストのCM収入、桑田佳祐の9年ぶりオリジナルソロアルバム「MUSICMAN」の印税収入が好調であったことも増益の要因となりました。

この結果、営業収入65億9千1百万円（前年同期比70.5%増）、営業利益10億8千4百万円（前年同期比52.3%増）となりました。

〔メディアビジュアル事業〕

当事業につきましては、DVD販売におきまして、韓国若手俳優チャン・グンソク主演「メリは外泊中」、NHKドラマ「セカンドバージン」、福山雅治主演大河ドラマ「龍馬伝 総集編」などであり堅調に推移致しましたが、前年同期に比べ大型作品が少なかったことにより減収となりました。しかしながら、映画出資作品の損失減少や管理費の減少により増益となりました。

この結果、営業収入10億9千6百万円（前年同期比46.8%減）、営業利益8千4百万円（前年同期比182.2%増）となりました。

〔コンテンツ事業〕

当事業につきましては、サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfumeなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用による印税収入でありましたが、著作権印税や貸与報酬の増加により増収増益となりました。

この結果、営業収入6億4千2百万円（前年同期比56.7%増）、営業利益1億1千7百万円（前年同期比101.7%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は60億8千3百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億9千9百万円の増加となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は6億6千万円（前年同期は4億7千9百万円の獲得）となりました。

これは、主に法人税等の支払額及び営業債権の増加に伴う資金減少要因等はありませんが、税金等調整前四半期純利益及び営業債務の増加に伴う資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は2億5千万円（前年同期は9千4百万円の使用）となりました。

これは、主に投資有価証券の取得による支出及び無形固定資産の取得による支出に伴う資金減少要因等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億1千3百万円（前年同期は1億5千6百万円の使用）となりました。

これは、主に配当金の支払額及び少数株主への配当金の支払額に伴う資金減少要因等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,247,040
計	37,247,040

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,311,760	9,311,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,311,760	9,311,760	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	9,311,760	-	1,587,825	-	1,694,890

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 74,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,968,900	89,689	-
単元未満株式	普通株式 268,360	-	-
発行済株式総数	9,311,760	-	-
総株主の議決権	-	89,689	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)アミューズ	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	74,500	-	74,500	0.80
計	-	74,500	-	74,500	0.80

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,802,894	6,102,951
受取手形及び営業未収入金	3,201,304	4,484,278
商品及び製品	1,411,483	1,071,465
仕掛品	1,194,412	1,265,182
貯蔵品	35,853	43,780
その他	1,274,179	1,556,347
貸倒引当金	134,587	176,850
流動資産合計	12,785,539	14,347,154
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,110,411	1,092,603
土地	1,760,487	1,760,487
その他(純額)	115,133	107,593
有形固定資産合計	2,986,031	2,960,684
無形固定資産	293,530	283,936
投資その他の資産		
投資有価証券	475,067	703,402
その他	1,729,522	1,712,068
貸倒引当金	12,551	14,627
投資その他の資産合計	2,192,038	2,400,843
固定資産合計	5,471,600	5,645,464
資産合計	18,257,139	19,992,619

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	3,931,574	4,996,278
未払法人税等	589,283	522,544
役員賞与引当金	20,660	-
返品調整引当金	28,560	23,800
その他	644,758	907,608
流動負債合計	5,214,836	6,450,231
固定負債		
退職給付引当金	762,225	782,348
役員退職慰労引当金	16,472	16,472
その他	179,541	177,418
固定負債合計	958,238	976,239
負債合計	6,173,074	7,426,471
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	1,694,890	1,694,890
利益剰余金	8,727,247	9,205,384
自己株式	76,920	76,994
株主資本合計	11,933,041	12,411,105
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,649	2,835
為替換算調整勘定	169,856	164,292
その他の包括利益累計額合計	166,207	161,457
少数株主持分	317,230	316,500
純資産合計	12,084,065	12,566,148
負債純資産合計	18,257,139	19,992,619

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 1 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日)
営業収入	6,337,783	8,330,529
営業原価	4,812,106	6,406,114
営業総利益	1,525,677	1,924,415
返品調整引当金繰入額	3,728	-
返品調整引当金戻入額	-	4,760
差引営業総利益	1,521,949	1,929,175
販売費及び一般管理費	1,062,539	881,279
営業利益	459,409	1,047,895
営業外収益		
受取利息	1,749	1,326
受取配当金	1,774	608
受取手数料	792	656
その他	2,608	670
営業外収益合計	6,925	3,262
営業外費用		
事業組合投資損失	-	26,780
為替差損	-	10,643
その他	2,536	3,117
営業外費用合計	2,536	40,541
経常利益	463,798	1,010,616
特別利益		
投資有価証券売却益	11,789	-
特別利益合計	11,789	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16,068	-
その他	1,868	-
特別損失合計	17,936	-
税金等調整前四半期純利益	457,650	1,010,616
法人税、住民税及び事業税	188,508	520,245
法人税等調整額	120,982	97,692
法人税等合計	309,491	422,553
少数株主損益調整前四半期純利益	148,159	588,062
少数株主利益	9,859	15,055
四半期純利益	138,299	573,007

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	148,159	588,062
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	452	814
為替換算調整勘定	4,190	5,564
その他の包括利益合計	3,737	4,750
四半期包括利益	151,896	592,813
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	142,037	577,757
少数株主に係る四半期包括利益	9,859	15,055

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	457,650	1,010,616
減価償却費	51,432	52,473
貸倒引当金の増減額(は減少)	26,620	44,340
役員賞与引当金の増減額(は減少)	12,180	20,660
返品調整引当金の増減額(は減少)	3,728	4,760
退職給付引当金の増減額(は減少)	13,158	20,123
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	525	-
受取利息及び受取配当金	3,524	1,934
投資有価証券売却損益(は益)	11,789	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16,068	-
事業組合投資損益(は益)	-	26,780
営業債権の増減額(は増加)	15,273	1,282,973
たな卸資産の増減額(は増加)	71,345	261,320
営業債務の増減額(は減少)	84,535	988,570
未払消費税等の増減額(は減少)	68,775	36,386
その他の流動資産の増減額(は増加)	69,054	217,237
その他の流動負債の増減額(は減少)	28,165	317,498
その他	1,570	2,436
小計	486,353	1,232,981
利息及び配当金の受取額	2,725	872
法人税等の支払額	10,012	573,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	479,066	660,568
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	9,201	2,956
有形固定資産の売却による収入	5,604	8,279
投資有価証券の取得による支出	-	216,200
投資有価証券の売却による収入	27,189	9,487
無形固定資産の取得による支出	94,840	15,116
子会社株式の取得による支出	-	14,551
貸付けによる支出	20,710	1,600
貸付金の回収による収入	1,509	1,281
その他	3,889	19,319
投資活動によるキャッシュ・フロー	94,338	250,695
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	55,471	197
自己株式の売却による収入	-	105
配当金の支払額	93,953	90,873
少数株主への配当金の支払額	3,096	15,786
その他	4,311	6,705
財務活動によるキャッシュ・フロー	156,832	113,457
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,802	3,248
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	226,094	299,664
現金及び現金同等物の期首残高	3,638,819	5,783,607
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,864,914 ₁	6,083,271 ₁

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(持分法適用の範囲の重要な変更) 当第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンを持分法適用の範囲に含めております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (千円)	1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) (千円)
現金及び預金勘定 3,886,859 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 21,944 現金及び現金同等物 3,864,914	現金及び預金勘定 6,102,951 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 19,679 現金及び現金同等物 6,083,271

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月27日定時株主総会	普通株式	92,962	10	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月26日定時株主総会	普通株式	92,372	10	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	3,865,500	2,062,304	409,979	6,337,783	-	6,337,783
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	6,045	103,376	30,742	140,163	140,163	-
計	3,871,545	2,165,680	440,721	6,477,947	140,163	6,337,783
セグメント利益	712,046	29,954	58,290	800,292	340,882	459,409

(注)1. セグメント利益の調整額 340,882千円には、セグメント間取引消去45,094千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 385,977千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	6,591,426	1,096,678	642,424	8,330,529	-	8,330,529
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	8,024	83,808	31,546	123,380	123,380	-
計	6,599,451	1,180,487	673,971	8,453,910	123,380	8,330,529
セグメント利益	1,084,436	84,527	117,586	1,286,550	238,654	1,047,895

(注)1. セグメント利益の調整額 238,654千円には、セグメント間取引消去8,580千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 247,235千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	14円91銭	62円03銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	138,299	573,007
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	138,299	573,007
普通株式の期中平均株式数 (株)	9,276,128	9,237,236

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月12日

株式会社アミューズ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 百井 俊次 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 米村 仁志 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。